イングマール・ベルイマン監督作品

制作：……アラン・エーケルンド
原作：……ペール・アンデシュ・フーゲルストレム
脚本：……P・A・フーゲルムストレム、イングマール・ベルイマン
撮影：……グンナル・フィッシェル
主演：……ハーリエット・アンデション、ラーシュ・エークボルイ

今、夏のベルイマンが甦える…

モニカ

Sommaren med Monika

製作会社 AB SVENSK FILMINDUSTRI 配給会社 Embodiment Films Co. a division of SUNSET RED Production K.K.

モニカ

Sommaren med Monika

1953年制作/スウェーデン/スタンダード/上映時間92分

大 スヴェンスク・フィルムインダストリー制作作品

主演……ハリエット・アンデション
……ラーシュ・エークボル人
監督……ベール・アンデシュ・ベルイマン
原作……イングマール・フーゲルストレム
脚本……イングマール・ベルイマン
撮影……エーリック・ノードグレーン
音楽……グンナル・フィッシェル
美術……P・A・ルンドグレーン
録音……スヴェン・ハンセン

〔解説〕

ストーリーだけで見ると青春のあやまちと少年非行をいましめる映画のようだが、もちろんベルイマンはそんなつもりではない。ただ、お定まりの反抗映画にもならなかった理由は、全編を流れる夏と青春への激しい哀惜の情にある。それが、自由を求める若者の叫びとして共感をさそうのである。

もっとも、モニカの役がハリエット・アンデションでなかったら、それはこんなにすばらしくは描けなかったに違いない。実際にベルイマン自身も、彼女を発見したことが状況を一変させたのを認めている。

ハリエット・アンデション（昔はアンデルソンと呼んでいたが、発音としては正しくない）は、自分自身がストックホルムの場末の生まれで、最初はレビューのダンサーだったが、端役で数本映画出演したところでベルイマンの眼にとまったのである。ベルイマン監督作品へはこの『モニカ』が初出演だが、それ以来『道化師の夜』53『夏の夜は三たび微笑む』55『鏡の中にある如く』61から『叫びとささやき』73『ファニーとアレクサンデル』82に至るまで、いわゆるベルイマン一家の最重要人物の一人となった。私生活でも、彼と一時同棲していたことがある。彼女のネオ＝リアリスモ的な野性味は、北欧映画界に初めて肉体で表現する強烈な個性を生み、ベルイマンにも転機をもたらした。

この映画の歴史的な重要さは、フランスのヌーベル・バーグの若き作家たち、ことにトリュフォーに影響を与えたことにある。登場人物がカメラのほうを見て話す演出や日常的な事件だけで映画が進行する自然さが、当時のフランスの傾向とくらべて感銘をさそったようで、そのためか、彼やゴダールの作品にはこの映画のポスターがよく登場する。

〔物語〕

19歳のハリー・ルンドは、技術者志望だが、母親は早くに死に、横暴な父親には反感を持っているので、とりあえず自活しなければならない。そこでストックホルムの場末にあるフォーシュベルイ陶磁器&ガラス商会の配達係になったが、意地の悪い支配人にいつも叱られてばかりいる。

ある日ハリーはカフェで17歳の青果商店員モニカと知りあったが、彼女も父親には反抗しており、話のあった二人はやがて恋愛に進む。彼は彼女の奔放さにひかれ、彼女は彼の実直さに好意を感じ、彼女のボーイフレンドの一人レッレの妨害も問題ではない。

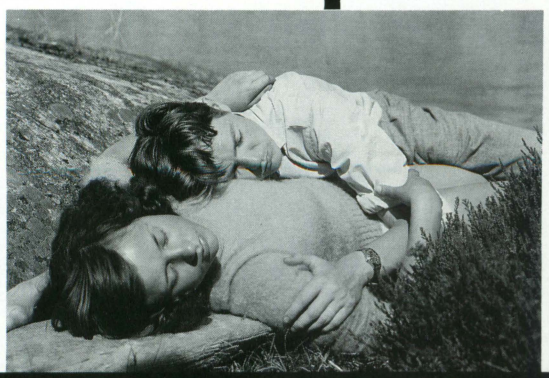
それからほどなく父親と口論したモニカは、家出してハリーを頼る。二人は結ばれたが、おかげで翌朝遅刻したハリーは即座にクビになる。けれども彼はむしろ解放感を味わい、ちょうど夏と白夜の季節の始まるころなので、そのまま父親のモーターボートを失敬してモニカと一緒に旅にでる。二人は郊外の島から島をめぐり歩き、愛しあった。ある入江では、レッレが現れてモーターボートを焼こうとするが、格闘にはハリーが勝つ。

夏が終りに近づくにつれて、モニカは妊娠したためイライラが激しくなる。食物を盗みに入った別荘でモニカがつかまりかけた時、ハリーが先に逃げてしまったため、彼女は彼をののしり、仲は冷え始める。

都会へ戻った二人は、正式に結婚し、ハリーは昼間は町工場で働き、夜は技術者になるための勉強を始めた。まもなく女の子が生まれた。ハリーは新生活に満足だったが、モニカは家事と育児に疲れ、同じような毎日のくり返しに、定住を後悔する。ある時、思いがけず早めに帰宅できることになったハリーが胸をおどらせてアパートのドアをあけてみると、妻はレッレとベッドの中にいた。しかし、モニカは逆にハリーをののしった。

数日後、ハリーが仕事から戻ると、もうモニカの姿はなかった。ハリーは、残された赤ん坊を自分一人で育てる決意をする。

街は、冬の初めになっていた。



3月20日(日)よりオープニング・レイトロードショー！

連日9:20PM上映 毎土曜を除く 11:00PM終映予定
〈「アメリカン・ウエイ」上映中は金土を除く〉

特別鑑賞券1200円絶賛発売中（当日／一般1500円 学生1300円）

● 特別鑑賞券は、都内各プレイガイド、チケットセゾン、チケットぴあ、セゾン系各劇場他でお求め下さい。

シネセゾン渋谷

道玄坂 ザ・プライム 6階 03(770)1721

イングマール・ベルイマン監督作品 「第七の封印」「シークレットオヴウーマン」「モニカ」、キネカ大森にて4月上旬より連続ロードショー